

## 第4回 史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会 会議録

1. 開催日時 令和5年1月29日（日）午後2時00分から5時00分まで

2. 開催場所 船橋市役所6階602会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

阿部委員長、樋泉副委員長、米田委員、秋山委員、朝倉委員、野田委員、小川委員、  
今井委員

#### (2) 事務局

三澤生涯学習部長、松田文化課長、金子郷土資料館長、田久保飛ノ台史跡公園博物館  
長、白井文化課長補佐、高橋埋蔵文化財調査事務所長、小中文化財保護係長、小林調  
査班長、白崎副主査、林主事

#### (3) オブザーバー

千葉県教育庁文化財課 松浦文化財主事

4. 欠席者 押田委員、田中委員

### 5. 議題及び公開・非公開の別

- (1) アンケートについて（公開）
- (2) 保存活用計画書の内容検討（公開）
- (3) その他（公開）

### 6. 傍聴者数

0人

### 7. 決定事項

- ・史跡取掛西貝塚の市民・教職員・周辺住民向けアンケートについて、委員より質疑及び意見交換を行った。
- ・事務局が作成した保存活用計画書の素案をもとに、委員より質疑及び意見交換を行った。

### 8. 議事

開会（14時00分）

#### (1) 事務局説明

本日は、押田委員、田中委員が欠席である旨、説明があった。

#### (2) 会議の公開、傍聴者について

事務局より、本日の会議が公開であること、傍聴者が0名であることについて報告があった。

#### (3) 議事1 アンケートについて

#### (4) 議事2 保存活用計画書の内容検討

事務局から説明を行い、質疑および意見交換を行った。

##### 活用の方向性について

**阿部委員長：** 前回からの継続議題として、取掛西貝塚の活用の方向性を起点にこれからの議論をしていきたいと思っております。事務局から説明をお願いします。

**事務局：** 国の史跡は、全国にたくさんある遺跡のうち、その中で我が国の歴史を正しく理解するために欠かせない重要な遺跡で、かつ、学術的価値の高い遺跡が指定されることになっていきます。取掛西貝塚は重要な遺跡であるということで、昨年の10月に指定されました。まず、取掛西貝塚の価値について、地域的に3つの視点から説明します。

一つは日本列島での重要性です。約1万年前の貝塚は、全国的にみても10に届かないくらい非常に少なく、貴重です。それと、更新世末から完新世にかけて、グローバルな温暖化や海進といった環境変化に対応して、定住的な新しい生活様式が開始されました。まさにそういった貝塚形成期の生活と環境、文化がわかる遺跡であるということで重要です。また、その中でも、取掛西貝塚は貝塚だけでなく、堅穴住居もたくさんみつかっており、ムラもわかる。貝塚もムラも両方わかる場所も日本列島の上では重要性が高いと捉えております。

次にもう少し狭い地域、東京湾東岸部、千葉県での重要性という観点で説明します。東京湾東岸部は、全国一の貝塚密集地で、特別史跡の加曾利貝塚など日本でもかなり有名な貝塚が多く形成されているところです。その地域の中で、貝塚形成の一番はじめの様子がわかるということで地域の重要性があると考えております。また、千葉県には重要な貝塚が多く、縄文時代でも中期や後期といったもう少し、後ろの時期の貝塚が多く目立っています。船橋市には、早期前葉の取掛西貝塚や早期後葉で東京湾東岸部を代表する飛ノ台貝塚があり、貝塚の初めの方がわかるということも地域の特徴として重要性があると捉えております。

3つ目として船橋市での重要性という観点からみますと、船橋市は縄文時代から現代まで、貝塚であるとか、江戸時代であれば御菜浦であるとか、現代でも東京湾岸でも有力な漁業がおこなわれている場所ですので、海と関わって人が集まって、発展してきた都市船橋の原点としての価値があると考えております。また、船橋市初の国史跡として、地域の誇りになるというところに価値があると考えております。

これら3つの観点からの重要性を踏まえ、「海とともに発展してきた「ふるさとふなばし」の歴史的起点である取掛西貝塚の価値と特色を踏まえて、地域の財産として市民とともに永く伝え、守り、活かす」活用をはかっていきたいと市では考えています。

また、活用をはかるにあたっては、この史跡取掛西貝塚を核として、縄文具塚や遺跡、さらに広げて、古代から現代までの貝塚や遺跡だけでなく、いろいろな文化財や歴史史料といった幅広い範囲のものを合わせた活用を目指していきたいと考えています。こういった計画は、個別計画である史跡取掛西貝塚保存活用計画のあとに、船橋市でも文化財保存活用地域計画をつくっていきたいと考えておまして、そういったものにも反映させていきたいと考えています。

**米田委員：** 取掛西貝塚の重要性について、いままでの議論の流れを踏まえてまとめた点はよかったと思います。基本的なゴールのイメージになるので、詳細な点を確認するためにも文章で示して欲しい。

**事務局：** 活用の方向性について、素案の「大綱」を修正し、反映させてお示ししたい。

**米田委員：** 前回のアンケートの議論を受けて、そもそも国の史跡に指定されたことの意義が伝わ

っていないと感じました。史跡とはどういうもので、有名な遺跡がたくさんあるなかで、船橋市で初めて国から史跡として認められて保存活用することになったことの意義を市民に伝える必要があり、これをうまく伝える工夫がこれからの活用の中で重要になってくるのではないかということが、前回、議論されました。それなので、大綱に書くというよりも、ぜひ、市民向けの発信で、そのような史跡としての価値についてわかりやすい説明を追加していただきたい。

#### アンケートについて

**阿部委員長：**他になければ、議題1のアンケートの結果について、事務局から説明をお願いします。

**事務局：**12月から1月にかけて、取掛西貝塚の遺跡周辺もしくは遺跡内にお住まいの方、遺跡内の土地を所有されている方などを対象としたアンケートと、学校教職員向けのアンケートを実施しました。まず、地域住民アンケート結果から説明させていただきます。資料の方には総数を書いてありませんが、256世帯に配布させていただいております。厳密には、1世帯で何人答えていただいてもよいようにしておりましたので、厳密な母数はでておりません。256世帯で回答数83として仮に割り返すと、30%くらいの方にお答えいただいたということになります。まず、問3史跡に指定されたことを知っていますかということと、問4どんな遺跡か知っていますか、指定と遺跡のことについて認知度を確認させていただきました。今回のアンケートは、遺跡の中に住んでいる方と、遺跡の外にお住まいですが、遺跡の中に土地を持っている方、遺跡の中に土地も持っていないが、中にも住んでいないが、すぐ近くに住んでいる方を表では「近隣住民」というように表現しております。こうやってみていただきますと、遺跡の中とか土地所有者の方、限定してしまうと母数が少ないのですが、やはり指定の段階から、ご説明したり、コミュニケーションをとらせていただいた成果なのか、知っているという割合が非常に高く出ている一方で、近隣住民では、知らないという回答の方が少し大きい。全体としてはある程度知っているが43という数字がでていて、認知が進んできていると思いますが、さらに近隣の方々に知っていただくことが、一つの課題としてあるのかなと思います。問5興味ありますか、それと問6イベント、これは現地以外でということにしますと、遺跡内に住む住まない、土地を持っているもっていない関係なく、全体的に場所や内容によっては参加したいということで、好意的に受け止めていただけています。40.96%を超える回答がでています。次に参加してみたいもの、例として問7であげているのですが、いろいろなものにばらけてでています。逆に参加したくない理由は何ですかというに対しては、時間的余裕がない、興味がないという回答がでています。問11現地での活用ということになると、土地をお持ちの方、現地にお住まいの方というのは、自分たちの生活に関わりますので、現地に限定した質問を問11・12でさせていただきました。回答は、時間があれば参加したい、内容によっては参加したいが回答の割合としては高く、比較的好意的にとらえていただいているのかなと思います。問12の方が、具体的にどうかということで、美化活動というのが26.5%と多い。その一方で積極的に参加するということでは、44.6%がしたいと思わないという回答になっていて、不安な部分もある。記述式の回答をみると、そういった不安な部分が見えてきている。

次の問13の期待するところで見ると、5の生活環境と調和した保存の場が50.6%、その次としては、2の地域の歴史を学び体験できる場というところが高くでてきています。触れませんが、記述の内容では、遺跡が整備されていったときに、具体的にいうと不法駐車とかそういった生活への影響を懸念されているご回答が少なからずありまして、そういったところ

とちゃんと調和した形で、活用してほしいというご希望が、この数字にでてきています。また、遺跡の中には住んでいないが土地を所有している方では、市民の憩いの場が62.5%と好意的にとらえていただいています。そういった調和を重視してご回答いただいています。地域住民アンケートを全体に見ると、ある程度、ご存じの方はご存じで、好意的に受け止めていただいているのかなど、回答率もありますが、やはり自分たちの生活と調和というところに不安がありますし、そういったところをきちんとケアする活用をしてほしいというようなアンケート結果がでていていると思います。

続いて、教職員向けアンケート結果についてご説明いたします。1000に近い回答をいただきまして、表の職員数は、あくまでも正職員数で、正職員数でみると、3割ちょっとの教職員の方が回答をしてくださったという結果です。実際は、会計年度任用職員の方もお答えいただくということで回していますので、母数自体はもう少し大きいですが、こういう形でお答えをいただきました。取り急ぎ、中学校と小学校に分けて、アンケート結果をまとめてみました。中学校の方をみていただきますと、中学校の教職員では、ある程度知っているという方と、あまりよく知らないという方と、全体では3割ずつという結果がでています。いままで、パンフレット・リーフレット類というのを中学校1年生もしくは小学校6年生を対象にお配りさせていただいておまして、まず、遺跡という形ですから、社会科との結び付けがみなさん、強いようです。担当科目が社会科という先生だけをピックアップしたところ、社会科の先生方は、よく知っているとある程度知っているところだけで8割を超えるというような結果がでていますが、その一方で他の教科で担当しているというお答えいただいた先生方は、やはりあまりよく知らないという回答がでていているということでございます。問2のどういったところで知っているのかということをもて、社会科の先生はパンフレットというところが75%です。もしかすると、市内の全生徒対象で中学校1年生にお配りしているパンフレットそれ自体が先生の周知にも役にたっているということでもあるのかなというふうに考えております。いままで、取掛西貝塚のパンフレットが3種類ありまして、中学校1年生、小学校6年生、小学校3年生にお配りさせていただいております。さらには、船橋全体に遺跡マップというのを中1とか小学校6年生にお配りさせていただきました。3年度はデジタル版だけをお配りしたということとして、デジタル版を配った年と紙を配った年ということで、今回、分けてアンケートを取らせていただいておりますが、みていただきますと、4ページ問3どのように活用しましたか、中学校ですと、やはり社会科が配っておりますので、社会科ですと1番2番3番といった授業で活用したというところが非常に多い。興味深いのは、デジタルで配っても、3番とか7番にあるように、印刷して配っている。逆にいうと学校の先生方に負担がかかってしまうというような結果がでていているということでございます。

どのような授業で使いましたかという問4ですが、圧倒的に社会という結果でした。単元の方では、記述式でも書いているのですが、やはり最初の「縄文時代のはじまり」という単元で使っていただいているということですが、興味深いのは、理科でも使用していただいている先生がいらっしゃるという環境とかそういったところで、使っていただいています。

マップ類をお配りするときに、保護者の方にもみてもらうように生徒さんたちに言って欲しいとお願いしておりますが、指導いただいているのが3.5ということで、保護者にも伝えていただいているということでございます。問7また、保護者の方への周知という意味でも少しは効果があると思うと答えていただいているということでございます。

次、問9です。今度は紙で配布したものですが、やはり同じような数字です。ちなみに灰色

はさきほどのデジタル版をまとめて表示して比較できるようにしています。配布の割合は回答としてはあまり変わりはありませんでしたが、デジタル版の場合は、印刷して配布というパターンが多く、デジタルのままというよりは、紙でつかっていただいています。また、紙の方が授業で使用いただいた回答が若干、高いというような結果がでております。科目別でみますと、やはり圧倒的に社会科で使用したという回答ですが、理科や国語でも使っていただいている事例があり、今後の活用について考える上で、重要だと思えます。科目別で見たときに、5番6番に数字がついているのは、たぶん、科目の先生が、例えば理科ですと、6番メールで配布したという回答は、担任のクラスで配ったという意味かもしれません。担任をしていますかという設問をしなかったため、厳密にとらえられませんが、そういった可能性があります。

どのような授業で使用しましたかという問10です。こちらはやはり社会科が一番多いです。保護者に見てもらおうよう指導しましたかは37とかなりよい数字です。続けて効果についても、34が少しは効果があるといってくださいています。問16にいきたいと思えます。過去に遺跡や文化財を授業に活用したことがありますかという質問に対して、中学校全体としては、「ない」が圧倒的ですが、使用度は社会科が圧倒的で、社会科の先生だけをみると、71%が「ある」といっていただいております。その一方で、他の項目で「ある」と回答、担当科目だけをみるとこういった科目でお答えいただいている。記述の内容回答のところで、理科ですと、化石とか地層、そういったところで、使っていただいたり、英語ですと、教科書の内容で遺跡に絡んだ時に話したり、そういうような形でご利用いただいたということです。これは、あくまでも船橋市の遺跡・文化財と限定しておりませんが、そういったような回答がでています。問17使い方の内容ですけれども、社会科が圧倒的なんですけれども、わずかに他の教科でも使う事例があるということがでてきます。次に問18どの授業で使用しましたかという質問では、社会科が37と圧倒的です。問20今後、活用したいですかというところでは、中学校では「わからない」が56%と多いのですが、社会科の先生は46.15%と高い数字で活用したいといってくださいています。それ以上に他の教科の先生方もこれだけ「思う」というところに回答してくださいている先生方がいらっしゃいます。記述の回答をみますと、関連するときにあれば、つかえそうならば、というように積極的に使えればということで、お答えいただいている。こちらへは、こういった教科のところで、どういように使えるかということを示唆していくことが重要な課題であるというようなアンケート結果がでてきます。

今、申し上げたことは、問21でより明確でございまして、教科別にみますと、どの授業で活用できると思えますか、圧倒的に自分の担当教科に関係なく、社会科とお答えしているのですけれども、自分の教科のところは、結構、高い数字がでているところは、社会科が一番、活用できると思うけれども、自分の教科でも使えると思ってくださっている先生が、その教科の先生は、積極的に考えてくださっているのではないかというふうな回答結果がでてきます。

問23どんな具体的な活用方法があると思えますか。中学校の先生は記述式もみますと、とにかく、単元をすすめていくということでそれだけで時間がないという回答をいっぱいいただいでいて、授業の中でどう活用するか、先生方が活用しやすい、あくまでも単元の授業の中でということをつたぶん、考えたご回答をいただいているのかなど。説明動画、写真資料、それから触れる実物というところの回答率が非常に高くなっています。最後、問26です。取掛西貝塚以外ではどうですかという、全体のより広い活用という中で考えるとどうですかとおききしたところでは、圧倒的に学区内の遺跡・文化財というところが40%近くの回答がありました。このような回答が中学校ではでてきます。ですから中学校では、なかなか単元としては

厳しいのだけれども、社会科ですと、単元の中で使えるのであれば、というようなご回答。またその一方で、こちらから提示していけば、他の教科でも使っていただけるかもしれないというようなことがアンケートで見えてきているのかなという風に思っております。

次に小学校についてお話しさせていただきます。小学校の方は、担当する学年ごとにご回答という形で、分けてアンケート結果を示しました。これも担任かどうかという質問をしませんでしたので、例えば、5年生とお答えいただいた先生でも、過去の6年生を担当したときのことを書いているというパターンがありますので、厳密ではありませんが、傾向がみえているのかなということで、学年を6年生だけを担当していますという回答を6年生、担当学年を5年生とだけ回答いただいた先生を5年生、というふうな形でこの集計をさせていただいております。こちらをみていただきますと、さきほども申しましたが、パンフレット・リーフレットを6年生、3年生にお配りしているせいか、やはり、6年生、3年生の先生方は比較的「知っている」「パンフレット等を読んだことがある」という回答の比率が高い。児童・生徒にお配りするということは、先生方への周知にも効果がでています。その一方で5年生、4年生という先生方は、「知らない」という割合がちょっと高いというような回答がでてきます。次に問3デジタル版についてですが、やはり小学校でも印刷して児童に配ったという回答が高い。紙ベースでの利用が非常に高い。問4どの授業で使用しましたか。これも小学校6年生も同じく、社会の授業でというのが圧倒的で、その次が総合学習というような回答なんですけれども、こちら理科というところで回答をいただいています。どんなのかというと、記述式の回答にありますが、「大地のつくり 地層」といったところで回答くださっています。記述式の具体的内容としては、ボーリング資料を使ってできたらよいという回答もいただきました。保護者に見ていただく指導も、小学校の方は111の先生方が指導くださっておりまして、その効果も効果がある、または少しは効果があると思えますと回答いただいております。問9、こちらは紙ベースのマップですが、やはり中学校と同じ傾向がでておりまして、紙ベースの方が多少、授業で使用する割合が高めということです。デジタル版は紙ベースで配布したものを含めて、同じような感じですが、その活用もパンフレット・リーフレットの配布対象学年の6年生、3年生の先生方が高い数字でお答えいただいております。

問10どの授業で使いましたかということについて、小学校も圧倒的に社会科となっています。保護者の方をお願いしたのも105ということで、指導していただけておりまして、効果としてもやはり100を超える効果が少しはあるんじゃないですかといただいております。というような結果がでてきます。

問15配布の時期の希望ですが、大半が「ない」とお答えいただいております。配布希望時期が「ある」とお答えいただいている方は、授業に合わせるということで、年度初めとお答えいただいている先生と、夏休みの自由研究などそういうところというので夏前というお答えをいただいております。大きく分けるとそういう分かれ方です、非常に興味深いのは、保護者会の前に配ったら、保護者への周知が大きいじゃないかというお答えの方もいらっしゃいます。問16過去に遺跡や文化財を授業で活用したことがありますかときかせていただいたところ、全体としては4割弱の先生方が活用したことがあるとお答えいただいた。学年でみますと、6年生が7割近くと圧倒的で、歴史の授業で活用しているということなんだろうと思えますが、そういう回答がでております。それに比して、5年、4年、3年となると、活用したことがないという回答が大きくなっています。とはいえ、5年、4年、3年の方も3割から4割の先生方が活用したことがあると答えてくださっています。問17どういうふうに活用しましたかと

ということですが、市内の遺跡や文化財を授業で取り上げているというふうに回答しています。

問18どの授業ですかというのは、小学校でも圧倒的に社会科、そして次に総合学習で高く利用されている。非常に興味深いのは、小学校でも理科で10、国語で4、図工で3というように他の教科でも使用してくださっている先生がいらっしゃるということでございます。

問20活用したいかどうかというところでは、思うとわからないというところが回答としては多いです。どの授業で活用できると思いますかというご質問に対して、先生方も社会科それと総合学習を高くいただいているんですけども、あわせて理科が20%という回答をいただいています。また、生活科のほうで4割近い回答をいただいております。問23具体的な方法としてはということですが、こちらも中学校の先生方と同じく、説明動画、写真資料、講師の派遣というところが回答として高くでています。やはり小学校の先生方も非常に忙しいという中で、負担にならない形で、活用しやすい活用方法を希望されているという回答の出方がしております。24番、25番はちょっと具体的にきいてみたんですが、動画なら10分、3分から5分、スライドだと6~10というところが多いです。取掛西貝塚以外の文化財というふうに市内全部で広くみたときには、なにが活用したいですかというご質問に対しては、小学校の先生方も学区内の遺跡というところで、身近なところで、遺跡・文化財というのを希望いただいております。他に高いものとしては、無形文化財、縄文時代以外の、要するに通史的に遺跡を捉えたいということなんですけれども、そういうような回答をいただいております。ちょっと長くなりましたが、先生方のアンケートをみますと、小学校は、中学校と比べて比較的、活用事例が非常に高いのかなと思うのですが、社会科に限定されてしまいがち、もしくは総合学習ですね。中学校の方は、小学校に比べて、やはり、授業の単元が進んでいく、テストがあってというところで、利用度が小学校ほど高くないというところですが、アンケートの結果としては、他の教科でも、使えればというような先生のお答えをいただいたり、使えるんじゃないかというご意見もいただきました。中学校の社会科に関しては、より先生方に活用していただきやすい形、特に中学校の社会科への使いやすさというものを検討する課題が見えているのかなと思っております。その一方で、社会科の先生以外の先生方へのより高い周知、また、他の教科への取掛西貝塚の活用というものを調査検討して、指導を進めていく。学校活用でのいろいろなアプローチの可能性が見えているアンケートだと思いますので、そういったところが、逆をいえば、課題になっていく。先生方からも社会科と限定しない。もしくはSDGsといったお話しをいただいておりますけれども、そういうのが、実際の先生方からもアンケートとして、可能性が見えているというふうに、そういう結果がでております。長くなりましたが、アンケート結果については、以上でございます。

**朝倉委員：**アンケートの回収率に関して、遺跡内の居住者、近隣住民の方というのは、どれほどの対象者がいて、どれほどの回収率だったのかを教えてください。

**事務局：**まず、遺跡内の居住者の方の世帯数としての母数は33でございます。そのうち9の方にお答えいただいたということになります。次に遺跡外にお住まいで、土地を所有している方ということでは、配布世帯数としては14ですので、こちらはかなり高い割合でお答えいただいているということになります。それ以外の残りが近隣住民ということになるんですが、この表で居住不明・所有者、遺跡外・所有不明というのは、居住していますかというところに印がついていなかった。所有してありますかに印がついていなかった回答になります。ご回答は世帯で1つしか回答しないという形ではとっておりませんので、正確には世帯数が母数ではないということになります。

**朝倉委員**：学校教職員向けのアンケートの配付地域に関して、取掛西貝塚から近い学校の回収率や活用に関する意向など距離的な問題や傾向が見られたのか教えてください。

**事務局**：まだそのあたりは分析できていません。数字がでましたら、報告いたします。

**朝倉委員**：取掛西貝塚に近い学校から活用などを普及していけたらよいと思います。

**秋山委員**：地域住民の方々に取掛西貝塚について厳しい意見を持っている方がいるというのが課題としてあると思うので、納得していただけるように働きかけることが大事だと思います。

**小川委員**：地域住民当事者として、回答率が30%ということは70%は回答をしていないということを見落とすと大変なことになると思います。近隣に居住しておらず、土地も持っていない地域の方からするとほぼ無関心だと思います。土地を持っている人も、農地というのは代々育ててきている特別な意味が込められているため、代替え地を用意すればよいという問題ではないと思う。利用価値のないような土地の所有者は、買い取ってくれるのであれば、協力してもよいと思っている人はいるとも思います。

**野田委員**：遺跡内に住んでいる人のいる町会のものとして、実際に居住している人に話を聞いてみると、市から補償の話などを聞いていない方がほとんどという印象を受けています。アンケートの自由記述欄にも厳しい意見が書いてあったりもするので、資産面でのネガティブな要因は不安につながると思う。

周辺の道路は非常に狭く、芝山側の方に事故の多い交差点があるが、恐らく警察もなかなか取り締まっただけではない場所のため、これ以上交通量が増えることは、地域として許容することはできないように考えています。

**阿部委員長**：地域住民の方のご理解と協力がないと国の史跡の活用ができないため、今回挙がった意見をきちんと記録し、将来の活用計画の中に課題を取り上げ、今後の議論につなげたいと思います。

史跡取掛西貝塚が重要だというのは分かるが、市がどのような方向性で活用していくかという点が見えないまま、このアンケートをしてしまったように感じます。回答する方にとっても、とまどう点があったと思うため、今回のアンケートの反省点と課題を踏まえて、近い将来、もう1回アンケートをやってみるのも良いと思う。数字の変化などを踏まえ、活用計画を進めていった方がよいかなと思います。

史跡というのは面白いから国の史跡になった訳ではないため、面白いとか好き・嫌いといった次元に持っていった説明をしたりすれば、教育にも活かしやすいように思います。

**松浦氏（オブザーバー）**：基本的に国の史跡の指定地については、当然、所有者さんの同意を得たうえで指定しており、同意を得られていない部分については、指定地にできていないという状態です。まだ同意を得られていない場所の方々の意見は真摯に受け止めて、今後の公有地化などのアプローチについてより綿密にやっていくというのは大前提にあると思います。

**阿部委員長**：アンケートに、今回の会議の冒頭で事務局から説明のあった「船橋市では、この貴重な遺跡を船橋の市民の皆様を知ってもらい、「ふるさと船橋」の誇りとして、未来へ継承していきたいと考えています。海と人の関わり合いのなかで、この遺跡を活用していくんだ」という説明があった方がよかった。船橋市は歴史をどういうふうに考えているのというところをもうちょっとわかりやすく伝えると、取掛西貝塚だけでなく、海と人との関わりという面で、船橋はそれを大切に考え未来へ継承していこうとするなかで、取掛西貝塚やその他の文化財に対する市の姿勢が読み取れると思います。

埋蔵文化財に限らず、船橋市の文化財全体として、「海とふなばし」というキーワードで何が

活用できるかという視点で行えば、歴史にとらわれない様々な活用を考えることができると思います。

**秋山委員：**先進的な遺跡の活用では、いままでのそういう教育的な問題に市の産業化をどうしていくかということをやっているところが結構あります。観光系のDMO（観光地域づくり法人）も一緒に参加したり、あるいは建設課さんが参加したり、例えば公園をやっている方々と、市全体の公園の分布と遺跡がどういう関係があるのかという。さきほど道路が狭いという話がありましたが、これは教育委員会だけで処理できないと思います。かなり都市計画的なことを含めて、市全体で横通しで考えていかないと、ここの遺跡そのものは、最終的に活用がなかなかできないのではないかと。この委員会としては、絶対、駐車場はいるとかそういった要望をどんどんあげていかないとだめだと思うし、来年度以降、どういう組織体でやっていくかというのも、重要な問題です。

**阿部委員長：**地元の方々の生活の場で起きている交通事故や不審者などの問題も少しでも解消できるような取組をするんだという姿勢を市の方で明確にして、地元の方々にそれを丁寧に説明する必要があります。

**小川委員：**このアンケートの説明文などで、市の考え方が前よりははっきりしてきたとは思いますが、まだ、みんながイメージできるようなテーマがない。自分が思っているのは、温故知新になぞらえて、縄文をたずねて未来を知る。縄文時代は1万年も続き、気候変動も乗り越えてきたのですから、現代社会の持続可能というテーマや共生とか、何かしらテーマがあると一般市民もわかりやすいし、学校でも進めていきやすくなると思う。

**樋泉副委員長：**以前の素案に記載されていた「約1万年前は、寒冷で不安定な気候から温暖で安定した気候に転換し、急速な海面上昇（縄文海進）が進んで地形や環境が激変しました。この変動に対応するため、人々は環境に働きかけ定住的な生活様式を確立させていきます。また、このころ、はじめて船橋付近まで細長い海が到達し、人々は海の資源を利用し始め、貝塚がつけられるようになります。」というのは、重要な文言だと思う。「海とふなばし」というのは一つのテーマになるため、うまくアレンジしていくと良いと思う。まだもうひと頑張り、もっと

**小川委員：**アンケートのなかで、選択式ではなく、記述式の項目に良い意見が埋もれていると思うので、それを拾い上げて課題にしていく方が良いと思います。

**秋山委員：**船橋市は、人口がものすごく増えたという社会的変化があり、これから文化をどうやってつくっていくのかという問題がでてきていると思います。「文化都市船橋」を作るという大きなテーマがあっても良いと思います。日本の1万年以上続く縄文文化のはじめの部分を船橋が持っているということは、十分、テーマになると思います。

今は、いろいろな省庁が合同で史跡の活用をしようとしています。国土交通省や環境庁、通産省、農水省などと話がはじまっていて、これから各省庁の補助金が出てくる可能性があります。だから文化財だけでやらないで、市も全体で取り組んでいくことが重要になります。

史跡整備で、駐車場をつくらないということを平気でやってしまいますが、他の遺跡などを見てみても、駐車場がない遺跡には人は集まらないと思います。史跡の活用にはこのような委員会の力もありますが、やはり地元の方の力が大きいです。

**小川委員：**市民全体を盛り上げるのは無理なので、すごくやる気がある人や興味がある人が少数でもいるので、その方々を中心に市がかかわる形で行うのがよいと思います。

**野田委員：**補償問題など、実際に住んでいる環境の問題というのは、生きていく上で大切なことなので、この課題をひとつひとつ、しっかりと解消して欲しいと思います。

**米田委員：**市役所から継続的に働きかけを行うことは絶対的に重要だと思うので、今回のアンケートで何割の方が見てくれているか分かりませんが、回を重ねていくうちに遺跡のことについて理解が深まっていくと思います。そういう意味では、今回のアンケートは、ある一定度の効果はあったのではないかと思います。

市の具体的な計画のスケジュール感が見えず、数十年かけて保存活用していく内容だけだと確かに不安に思うのは仕方がないことと思います。地元の方々には、特別手厚く、なるべく具体的な情報を工夫して提示していくことが必要になるのではないかと感じました。

**阿部委員長：**計画について、例えば、小刻みに今後2年、5年以内などと明記して、積み上げたうえでの10年計画という意味合いにすれば、市民の方に少しずつ整備されていくということが理解していただけだと思います。

**米田委員：**現時点で、整備計画を何年までに作成する予定で、その後何年くらいで実施していくか、その間市に土地を譲っていただける方からは、このように土地を買い上げさせていただくなどの方針だけでも示していくことができれば、イメージが違ってくると思います。

定期的に行う地元の方々への説明会など、何か行動を起こして、毎回アンケートを取るといような形式でも良いように感じます。

**樋泉副委員長：**船橋市として、回答できない部分は無理しなくて良いと思いますが、代表的な質問に対して、船橋市はこういうことを考えていますとか、現時点ではちょっと具体的にお答えできる段階ではなが、今後何年以内に具体化してお示ししますとか、このような方向性で準備していますとか発信して還元できると少しずつ理解が深まるのではないかと思います。

**秋山委員：**市民の方々は、整備したらどうなるかということがわからない。そのため、例えば、千葉市の加曾利貝塚とか既に整備されている例を示して、そういうものが街にあると良い街になりますよという印象を掲げて、アンケートをとると全然違う内容になると思います。

**米田委員：**このアンケートの結果を見ると、観光地化するのではないかと心配されているような方もいると思います。例えば、三内丸山遺跡や吉野ケ里遺跡のような場所を想像して、困ると感じる方もいると思いますが、上高津貝塚など住宅街の真ん中にある普通の公園として整備されている場所もあります。色々な誤解も生じていると思うので、様々な整備の形があるということを知ってもらえると良いと思います。

**阿部委員長：**市民にとって、前後関係には事情があるのですが、市の総合計画と個別の計画が別々になっていて、船橋市の将来構想になっていくことを思うと、非常に不安に感じる部分もあると思います。

**松浦氏（オブザーバー）：**文化財の保存活用地域計画を策定している他市の市町村では、計画のなかにまちづくり課など関連している部署に関わってもらい、意見を出してもらっているところもある。早い段階で、関連する部署と連携し、意見調整などを行うと良いと思います。

**阿部委員長：**船橋市の文化財保存活用地域計画では、文化課として取掛西貝塚の重要性や船橋市の文化財利用の将来構想などを必ず入れていただいて、取掛西貝塚だけがすごいのではなく、まちづくりのなかで位置づけているという姿勢も伝えるようにしてください。

学校教育と取掛西貝塚に関して、社会科の教育のなかでは活用しているという感触がありましたが、社会科以外の科目でどのように活用できるかというのが課題になると思います。

**今井委員：**学校教員がアンケートに答えるなかで、なぜ社会科以外の教員まで回答しなければならぬのだという感覚が生まれている可能性があるのかもしれないです。

教員の意識改革を、研修などを通じて行うことができれば、アンケートに対する反応も違ってくると感じました。アンケートに回答する手前の段階が定着していなかった現状があるように感じるため、その点は申し訳なく思っています。動画研修であれば、先生方も一人一台、コンピュータがありますし、子供たちも一人一台端末が配られているので、ある程度の期間をとっていただければみんな研修できるし、画像などを使えるようにしていただければ、先生方も自分でいろいろ利用できると思います。

**米田委員：**文化課の方から学校の先生に働きかけるというのは、継続してやっていただきたいのですが、実際の先生の活用方法の事例を集めて、共有することができると、今までできていなかった先生でもヒントを得られるかもしれないと思いました。

**野田委員：**取掛西貝塚周辺の地元のこどもたちからプッシュしていけば、保護者の方々への認識も上がり、地域住民アンケートの結果も変わってくるだろうと思うため、地域の小学校、中学校に目を向けてもらえるとありがたいなと思います。

**米田委員：**地域の学校と連携する際に、依頼があった時だけに行うのではなくて、活用する事例を作りたいので、協力して一緒にやってほしいという働きかけができれば、より良くなると感じるため、検討していただければと思います。

**阿部委員長：**例えば、文化財であれば、社会だけでなく理科や技術などにこのようなものなら活用できるのではないかとといった意見交換の場を作るのも良いと思います。継続的にやらないと意味がないため、1年に1回など議論を行い、お互いに教材のアイデアを出し合うような取り組みを続けていかないといけないと思います。

**朝倉委員：**「海とふなばし」のようなテーマを、もう具体的に提示し、文化財に限らず、市内の様々な資源を活用した特色ある取り組みといったものを、先生方だけでなく、子供たち、中学生も含めた自由研究の場なども活かして、取り組めると良いと思います。

**阿部委員長：**特定な科目のなかで、文化財を活用するのではなく、科目を超えて、放課後や夏休み、自由な時間でも文化財を意識できるような取り組みを進めていくと良いと思います。

**今井委員：**今年は、縄文に関する自由研究が非常に多かったです。取掛西貝塚という固有名詞が出てきたりもしました。小学校3・4年生が「わたしたちの船橋」の学習から、中学1年生の子が縄文時代を習う歴史の授業からなど、様々な学年の子が色々なきっかけから疑問に思ったり、興味を持ったりしたことで、深化補足的な自由研究ということへ発展し、取り組んでいたように感じます。

学校教員のうち市内の小学校と中学校でそれぞれ、代表者何人かが集まりグループを作って、社会科の授業研究を行っています。取掛西貝塚を題材にした授業研究を組んでみるよう勧め、一つのモデルケースとして、共有していくことはできるかと思っています。そこで発表した指導案はデータで共有しているため、真似して授業する先生も出てくるかと思っています。

**米田委員：**アンケートとは関係ないですが、遺跡マップ、パンフレットの配布の面で、学校に配布されていたことを知らないという回答がアンケートでも過半を占めていました。配布方法などが認知されていないのかもしれないですが、毎年何らかの文化財に関する情報を、学校の授業進度や指導要領にあわせて提供するというようなことをやれば、先生方も必ず、何らかの文化財に関わる情報を目に思うので、1個しかない国史跡の取掛西貝塚のことも触れてもらえ、認知が広がると思いました。

**阿部委員長：**船橋の歴史を簡単に英語で話してみるような取り組みを行えば、英語科からも取掛西貝塚に興味に向くようにも感じます。そういった取り組みに興味をもってください英語の先

生もいるのではないかと思います。また、飛ノ台史跡公園博物館の展示プレートを英語併記にするのも良いかと感じました。

**今井委員：**教員の初任者研修で、授業のない夏休みに初任者をバスに乗せて、市内の歴史的場所を案内する研修がありますが、取掛西貝塚の現地に訪れるのも良いと思いました。

**米田委員：**最初に遺跡の価値について説明いただいた時に、グローバルで、どういう価値があるのかということが説明に入っていたので、いろいろな教科につなぐ視点としては、重要だと思います。日本列島、千葉県、船橋市というようにいくつかの空間的な解像度の違いで説明いただいたので、先生方が活用する材料として、色々な切り口が含まれているなどと感じました。「大綱」などを英語で併記するのも良いアイデアのように感じましたので、ご検討ください。

### 保存活用計画書の内容検討について

**秋山委員：**取掛西貝塚の草刈などを行っていると思うが、住環境との共生の視点をもっと明確に示すべき。

**松浦氏（オブザーバー）：**10年間の保存活用計画のスケジュールを整理し、最終的な目標や青写真が見えるようにすべき。機が熟して整備に入る時にスムーズに動けるため、ゾーニングや整備の将来的な姿などについて示せるものは、できるだけ示した方が良い。

**事務局：**史跡の重要性と価値、船橋市がどのような保存活用をしたいのか、どのように進めていきたいのか、地域住民とのコミュニケーションが不足していると考えられるため、どのタイミングでどのように示すのか検討して対応する。

**米田委員：**学術的な活用が弱いので、もっと前面に出してもらいたい。研究者が資料にアクセスしやすい環境整備が重要だと思います（遺物管理（データ等）、保管スペースと収納、埋蔵文化財調査事務所の作業スペース確保など）。

市外に保管されている市の出土文化財についても何があるのかリスト化し、各地の研究機関と連携して、学術的活用ができる体制を構築することを盛り込むべきだと思います。保護ができなかった遺跡についてもしっかりと発信すれば、取掛西貝塚の価値を高めることにつながるため、そういうことも含めて、取り組んだ方が良い。

**阿部委員長：**重要文化財指定を見越して、展示・管理施設整備の検討をした方が良い。重要文化財になると再調査ができなくなるので、研究の余地があれば、指定前に進める必要があるため、計画に入れた方が良い。

**樋泉副委員長：**出土文化財の実物に接する機会の提供・充実が必要だと思います。

**野田委員：**地域住民とのコミュニケーションは、継続的に行う方が良いと思います。

**朝倉委員：**保存活用に関わる主体は、他にも事業者や工業者、大学などもあるので、色々なプレーヤーを計画に入れておいた方が良いと思います。

## 9. 問い合わせ先

船橋市教育委員会 生涯学習部文化課 文化財保護係 047-436-2887